

## 【小学生の部】最優秀賞

### 「私のボランティア活動」

福井市一乗小学校 6年 伊与 生吹



私のしているボランティアについて話します。そのボランティアは、二つあります。一つ目は、ガールスカウトの活動の一つである、募金活動についてです。最近は、体育祭で、熊本地震の募金活動を行いました。他にも、緑の羽募金やネパール震災の募金もしました。緑の羽募金は、毎年福井駅前でたくさんの方に募金していただいています。ガールスカウトの募金活動で、他と違うところは、急ぎよ募金をするようになった時、みんながすぐ集まり、活動ができるということです。

特に、今回の熊本地震の募金などでは、本当に急だったので、みんなは、忙しい中でも、熊本のためエルパの前で約一時間半活動を続けたら、私達が想像した以上のたくさん募金が集まりました。私たちの努力が、熊本の困っている人達の助けになると思うと、

「やって良かったな。次もがんばろう。」という気持ちになれます。

また、その人達が笑顔になって、被災地が元通りになって、また、活気づいていってほしいと思います。

私は、これからも、ガールスカウト活動を

続け、募金を続けていきたいと思っています。

二つ目は、重度心身障害者施設のボランティアについてです。なぜ、私が重度心身障害者施設のボランティアをしているかというと私の母が、そこで働いていて、私も休日や大型連休になると遊びに行っていたからです。遊びに行くつもりで行っていたところから、だんだん手伝うようになって、ボランティアという形になっていきました。

特に、ボランティアをして変わったことは、障がい者の子に対しての考え方、見方、そして、自分の将来についてです。

私は、今まで「障がい者ってかわいそうだし、あまり近づきたくないな。」と思っていました。でも、ボランティアを始めてから、「障がい者の子は、ちっともかわいそうじゃない。少し不自由なだけなんだ。」と考えるようになりました。

私は、一人の子が一生懸命、勉強をがんばっているのを見たのがきっかけで、そう思い始めました。また、自分の将来については、前までは「看護師になりたい。」とだけ思っていたのですが、今は「看護師に絶対になる。」と思っています。

そう思い始めたきっかけは、寝たきりの子が苦しそうにしているとき、看護師さんがいそがしくて、なかなか手当をしてあげられなかったところを見ていたからです。

その時、私は、「私が大人で、看護師のめんきよを持っていたら、あんなに苦しい思いをしなくて済んでいたのではないか。」と思いました。

それからは、看護師さんのお手伝いをするようになりました。そこで、私が幸せを感じるときは、スタッフの方から「ありがとう。助かるわ。」

と言ってもらった時と、利用する障がい者の子が、遊んであげると笑顔になってくれることです。

これからも、この幸せをもらえるように、ボランティア活動を続け、助け合って生きていきたいと思いました。



## 【中学生の部】最優秀賞

### 「成長できたこと」

越前市万葉中学校 3年 山口 夏奈



昨年の秋、私は伴走ボランティアをしました。部活の顧問の先生に部員数名が伴走ボランティアに参加するように言われたことがきっかけです。

伴走ボランティアという言葉初めて聞いたとき、私はマラソンというイメージが浮かびませんでした。私は、マラソンが苦手なので参加したくないなと思っていました。「でもまあ、短い距離を走者と一緒に走るだけだし、友達もいるからいいか。」という軽い気持ちで伴走の練習日を迎えました。練習は、約半日行われました。伴走の練習をするだけだと思っていたら、まずはじめに目が見えないランナーの体験をしました。二人ペアになって一人は目隠しをし、もう一人は伴走をするという形でした。目隠しをしているときは、何も見えなくて、その状態で走るときは人にぶつからないか、正しい道を走っているかなど、不安と恐怖でパニックになりそうでした。この体験をして、伴走することの責任の大きさを感じることができました。

はじめは自分の体力がもつかが心配だったけど、そんなことよりランナーを安全に目的地までつれていけるかが心配になりました。伴走はただ一緒に走るだけでなく、周

りの状況や走る方向、コースを細かく、正確に伝えながら走らなければいけません。それは想像していたよりも難しく、伴走ってこんなに難しいものなんだと思いました。

はじめてランナーの方が走っている姿を見たとき、「本当に目が見えないのかな。」と思うほどスムーズに走っていたので、びっくりしました。しかし、私がランナーの体験をしたときの気持ちと同じ、目の見えないことの不安と恐怖があるんだと、伴走を教えてくださいださる講師の方が話していたのを思いだし、ランナーの気持ちになって、ランナーが少しでもリラクセスして走れるように心がけようと思いました。

まだ、伴走に慣れていないとき、いきなりランナーの方から

「ありがとうございます。」  
と言われました。伴走に緊張と不安な気持ちを持っていたときに、感謝の言葉を言われて、自分はランナーの方の力になれているんだという自信をもてました。そしてマラソン当日、絶対にランナーに楽しんで走ってもらえるようにがんばろうと思いました。

マラソン当日、マラソンをすることに對して嫌だという気持ちは全くありませんでした。ランナーを無事に目的地までつれてい

き、不安をなくして楽しんでもらえるように言葉をかけ続けようという気持ちでいっぱいでした。自分の出番が来たとき、緊張したけど練習とイメージ通りに伴走することができました。そして再び、

「ありがとうございます。」  
と言われ、「自分がいまここで伴走しているからランナーが走れている。」と、自分が役に立っているという誇りを感じました。また、伴走をやり遂げた達成感で胸がいっぱいになりました。

私はこの伴走ボランティアの活動をして、ボランティアとは喜びとともに自分を成長させることができるのだと思いました。

ボランティア活動をした人もされた人も、お互いにいい気持ちになり、笑顔になれます。文字通り、ボランティアとは無償のものですが、お金や物には代えられない、宝をもらったような気持ちになります。たくさんのお話を学べ、何事にも頑張れる強い心になり、前向きに生活できるようになったと感じています。

今後もボランティアに関心を持って、自分が少しでも社会に役立てるように、身近なことから頑張っていきたいと思います。

## 【高校生の部】最優秀賞

### 「ボランティアについての自分の思い」

福井県立武生工業高等学校 1年 北畑 和哉



八月の終わり、私は母の勤務先の納涼祭にボランティアにいきました。今年で三回目です。

中学二年の時、母に誘われて初めて参加したのがきっかけです。母の勤めている部署は高齢者の福祉施設ですが、その他にも障害者施設もある大きな職場です。

最初は、何をしたらいいのか分からず、母の後ろをついて回っていました。今年からは自ら車椅子のタイヤの空気入れをしたり、会場設備の手伝いをしたり後片付けを手伝ったりと、少しずつ何をすべきか考えて動くことができました。高齢者や障がい者の直接的な援助はしてませんが、自分にできることは何かを考えて役に立つことをしようと思っ

て動きました。ボランティアとはそういうことをいうのだと思いました。今年も八月最終の週末、二十四時間テレビの放送がありました。私は毎年番組を見ています。そして、今年もいろんな障がいをもった人がいろんな事にチャレンジをしています。

私が一番感動したのは、盲学校や、ろう学校に通う生徒達が音楽に合わせてヨサコイをおどるといふ企画でした。目の見えない人

と耳の聴こえない人が同じ音楽に合わせておどるのですが様々な工夫をし双方が同じ動きをすることができ、大成功に終わりました。私は、障がい者のことをかわいそうだと思ったりすることは、とても失礼なことだと思います。障がいがあることは、その人の個性であり、決して特別なことではないからです。

私自身、先天性食道閉鎖症という障がいをもって生まれてきました。生まれたその日に、胃ろうという胃に直接穴を開けて栄養を入れるための穴を造る手術をし、食道をつなぐ手術をしてもそのつなぎめが細くなり食べ物に詰まったりして何度も大変な思いをしたそうです。胃ろうからは小学校に入学するまで栄養を入れていました。そして私は他にも先天性の脊椎側弯症という背骨が曲がっている障がいもあります。身長が伸びる成長期には背骨のわん曲も進み、高校一年生になった現在も身長は150センチもあります。

私は保育園から中学校までの十二年間は周りの友達とはあまり変わることなくずっと一緒だったので周りのみんなが私自身の体のことを知っていて、小さい時から見ていたため私のことを変とか言う友達もほとんど

いませんでした。

高校生になり、今までの友達とは違う進路にいき、私のことを知らない人達が多いという初めての環境に最初はとても不安でした。同じクラスの仲間には担任の先生から私自身の障がいのことを告げられました。みんなどのように思ったかどうかは分かりませんが、今は受け入れられていると感じます。それは、私の個性だと思われているのだろうと思うからです。しかし、他のクラスや上級生からは私の外観をおもしろおかしく言ったり笑ったりされることもあります。

私は自分の経験を生かし、自分がされて嫌な思いをするようなことは決して他人にはしてはいけないし、しないでおうと思いません。

今は背骨が曲がっていて同じ年頃の男子達より少し体は小さいけれど、風邪もひかずに毎日元気に過ごせています。そんな自分でも人のために何か役に立てることがあれば、それはしていきたいと思っています。そんな思いもあって今年も母の職場の納涼祭にボランティアに行つたのです。

そして、これからも様々なボランティア活動に参加していきたいと思っています。